

はじめに

本研究は、教授コミュニケーションと協同に関する継続研究から発展したものである。平成7年度に科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を受けて『教授コミュニケーションと教授言語の研究—コミュニケーションとことばの教科論的分析—』（風間書房平成8年2月）を刊行し、以降、平成8・9年度（課題番号08680288）、平成10・11年度（課題番号10680267）、平成12・13年度（課題番号12680265）と教授コミュニケーションと協同に関する理論的・実証的研究を継続してきた。

そして、教師のコミュニケーション能力開発のためには、トレーニングが必要との認識から、平成15・16年度には「教師活動支援のためのコミュニケーショントレーニングスーパービジョンの開発研究」（課題番号15530586）に着手し、この研究において、コミュニケーショントレーニングは教員養成でこそ必要であり、現職教員のためには、コミュニケーショントレーニングをスーパービジョンに位置づけるほうが効果的であることを理論的・実証的に明らかにした。

他方で、現在の教員の職能開発のために行われている研修、あるいは教員のバーンアウト現象などから研修のオールタナティブの開発が喫緊の課題であることが明らかになった。

そこで、コミュニケーションと協同の継続研究とオールタナティブな教員研修の開発の交点として、教育スーパーバイジョンを位置づけ、専門的な教育スーパーバイザーを養成するためのプログラム開発に着手するために、科学研究費補助金（基盤研究（C））期間2006～2008年「授業改善を目的とした専門的な教育スーパーバイザー養成のためのプログラム開発」を申請し、次の額が交付された。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,400,000	0	1,400,000
2007年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008年度	600,000	180,000	780,000
総計	3,000,000	480,000	3,480,000

授業改善を支援する専門的な教育スーパーバイザーの養成は、ある教育スーパービジョンモデルを前提として、その教育スーパービジョンを遂行できる資質と能力を養成することを意味している。本研究では、ドイツで開発された教育スーパービジョンキールモデルの全体性・体系性・優秀性を示し、この教育スーパービジョンを遂行する専門的な教育スーパーバイザー養成モデルを検討し、日本における専門的な教育スーパーバイザー養成のプログラム開発に貢献した。

なお、本研究の成果報告書は、大阪教育大学リポジトリ

<http://ir.lib.osaka-kyouiku.ac.jp/dspace/> において公開されている。

そして、本研究の成果をより活用するために、ここに印刷物としても作成することとした。印刷物の成果報告書は、理論的・実証的分析を中心とした本報告書と、教育スーパービジョンワークを実施するときに使用しうるワークシートを資料編として別冊で作成している。別冊では、本報告書で述べている教育スーパービジョンの四つのワークレベルごとに、そのワークで使用しうる計72種類のワークシートをまとめている。本報告書とあわせて参照していただければ幸いである。

本研究成果について、忌憚のないご批判とご教示をいただければ幸いです。

平成 21 年 (2009 年)

大阪教育大学社会科教育講座教科教育学研究室
教授 木下 百合子